

第7回緩和医療学会東海北陸支部学術大会 見どころ その2

いよいよ第7回緩和医療学会東海・北陸支部学術大会まで、あと50日になってきました。

今大会の見どころ第2弾をまとめましたので、ご覧下さい

その他に38題の優秀・一般演題、3つのランチョンセミナーを企画しております

事前参加登録は8月8日までとなっております。

直前・当日参加の参加費は1000円値上がりとなりますので、是非お早めに事前参加登録をお願いします。

第7回 緩和医療学会東海北陸支部学術大会
大会長 石黒 崇
(岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科 緩和医療センター)

教育講演 「緩和ケアにおける初診時の評価」

緩和医療・ケアを行うにあたり、「アセスメント（評価）」をしてから「マネジメント（治療・ケア）」を行う事は、誰もが疑問を持たないはずです。適切なアセスメントが出来ていなければ、適格なマネジメント出来ません。例えば、医師は疾患を治療するにあたり、SOAPを用いて日々の診療を行い、カルテに記載しています。果たして、緩和医療・ケアを行う際に、十分活用できているでしょうか？患者・家族の苦痛は、十分軽減出来るでしょうか？常日頃何気なくやっているアセスメントを振り返り、明日からの臨床に役立てるために、この教育講演を企画しました。どんなアセスメントの仕方したら良いか、基本の「き」、「一丁目一番地」、今一度見直してみませんか？

フロア参加型症例検討会 「困難な症例にどのように援助するか？」

本事例は、訴えの少ない終末期患者さんへの関わりが「本当に良かったのか？」を問い直すものです。

「患者の意向を最大限尊重して、緩和ケアの方針を決定する」

この言葉で説明がつくほど、緩和医療は単純ではありません。

このセッションでは、実際に緩和ケアに携わった医療者（演者）の葛藤と苦悩を、症例を通して参加者とともに追体験し、より良い関わり方や判断とは何かを模索します。

時に深く悩み、もしかしたら“沼”にはまるかもしれません。しかしそれでも、一緒に考え続けたい……

おろおろする船頭（座長）と、わくわくする乗組員（参加者）たちで、臨場感あふれる大海原（症例検討）へ、いざ出航しましょう。

シンポジウム 「アドバンスケアプランニングの今」

アドバンスケアプランニング(ACP)は、その重要性を皆が認識しながらも、いざ実践となると「はて、どうしたら良いか悩んでしまう」ことが、偽らざる事実かと思えます。「ACPのシートは作成したが、どのように運用するか？」と迷っている事はないでしょうか。この分野の著明な先生ですら、「ACPには時間と手間がかかる。一日中外来をやっていた……」と、黎明期の苦労を語られた事を、今でも思い出します。本セッションでは、ACPの最新の情報を整理していただき、ACPの実践に苦闘されている先生に、現場の実践と課題を生々しく紹介していただきます。また、医師だけでは負担が大きいACPをタスクシェアするために、看護師がその話し合いに参加する試みについてお話しいたいただき、基幹病院ではない中小病院でACPを導入・普及させる工夫を伺います。このセッションが終わった時に、混沌としたACPの世界に一筋の光が見えたとしたら、企画者としてはこの上ない喜びです。ヒントを見つけに、本セッションにお越し下さい！